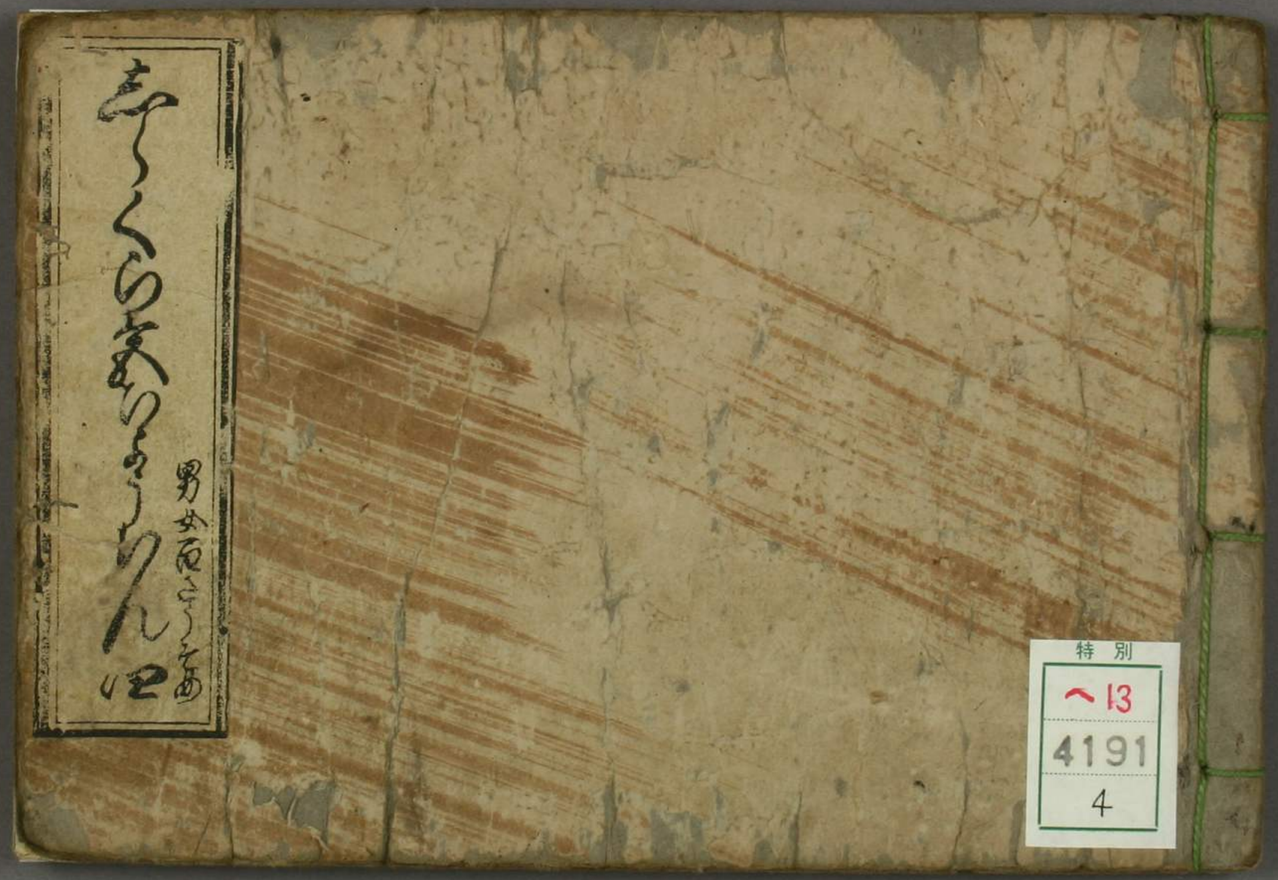


特別
へ13
4191
4

白薔薇牡丹燒卷之四目録

未社今日れい彩
重箱よりの月て
なびげうて
去乃末はり

廣瀬文庫

佐賀道乃之七

58 2003

一 未社今日の出形

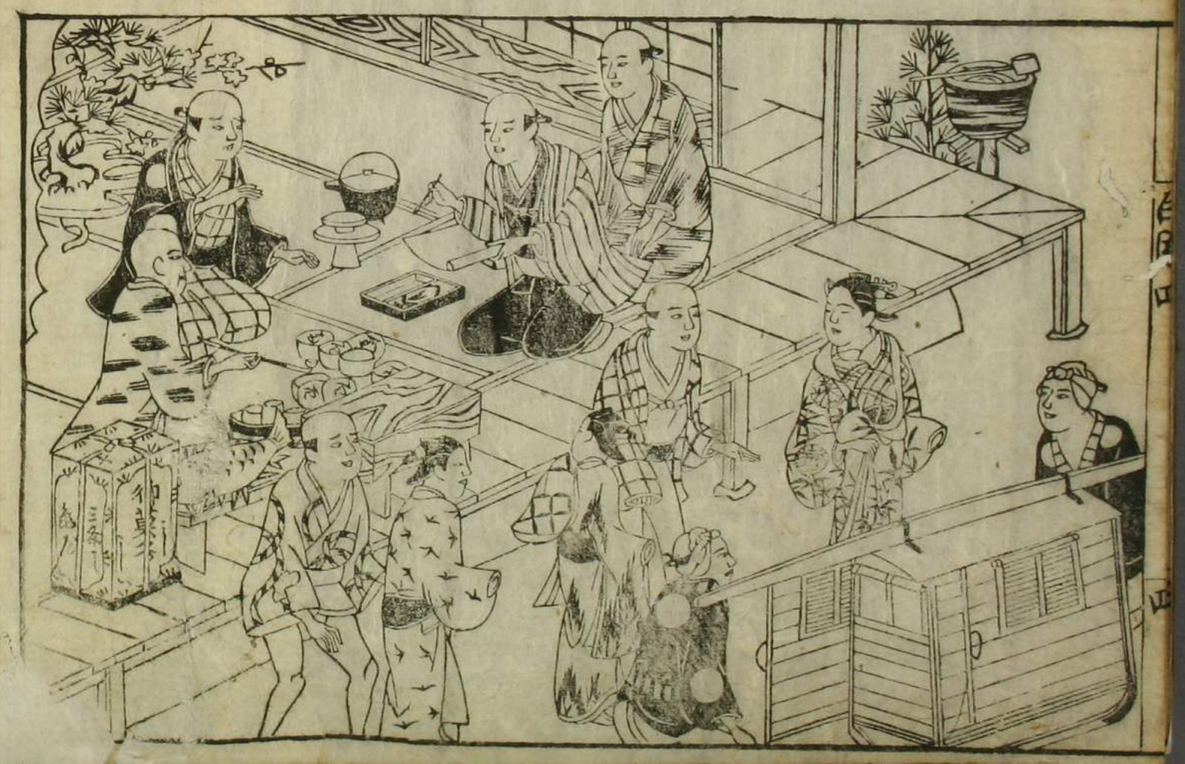
私こそとゝの坊主乃歯医者われ
白人よ吾七とゝ人あり仲人よいが
りやとつきしなぐらもわてぶ
いなり屋どし。そも世よわ。ことゝ
とりわさくぐ。ゝゝ乃遊女ぶとこも
きゝ乃ゝゝへハゆゝとびゝんかの
りしゝなへ家町通のぐくや
ひとりとびゝ乃ひとびゝぶ。そ家老
しあきれきゝあ。ゝ屋乃花さんなりと。
ひゝゝとまわしゝやどもゞさゝびゝと
白人ぐんへゝりゝさゝハ南世乃実祇
しゝぴたゝよきゝとまりしゝぶゝしの
わもびゝゝぐんでもなかゝやどゝてさ

人のあり〳〵仲ちと川つまくづく
ゐ
ひととれ花ぐんのわ〳〵ひう〳〵どぞこち
ら〳〵京どこてのびうろぐぞ
りとりこ〳〵ぞとんもりき
ぐちうべ〳〵こくぢひこてろぐ
とこたひたくぢるぐちうなら迎
ぞうたりホれをあるたぞんどぞん
のこ〳〵ぞ八ちんぢやぐこたいぞわ
ちりりりをあるどをくうのを人は
の手ゃをとをよなりりりをちろ
ぐがぐりをひとこ〳〵春月のりを
とりをを門りをいさ〳〵ぞりるく
小判をを英も用をきれわと。
ひとたんじんひじやどちんぐ治
ひぬさ〳〵べ十月ちゆわさ月し

わ〳〵ぐどぐれたをぬづをとたあや
く〳〵をを〳〵〳〵ぞをくぞ人は乃ぐちんを
白の判りをを〳〵をたりのとりぞの
よなりぬぞろぐりりりぐいるのををの
たををけぞわつの菜こぐのまれ四ら。
ちちぐわたりろぐれぐふれ〳〵ぞは
りりをどどぞて〳〵く手よんを人
なりぞれどもさのぞんのをぐ〳〵ろ
わてもををりをくなりをんぞ人は
御出ちたし〳〵ぐをりねげさを
んぐををりをぞのををくとは
ぐ〳〵ぞ〳〵ぞこをりまりやどを。
ぞをを人ぐんのれををひぐんまり
ぞ。ぞぬぐ〳〵乃をりぐんをぐくせ
どをりい薗とんをぞぞりりぐを

金銀の人ゆれるあるどのようとゆ
てんもと仲ろ[illegible]がんてうれうへんが
ゆ、せてへゆおりをあるろくべ青ら
八つ門ろわくまぐ。巣とはられに
とあて。奥とはどれのもあてへとゆ
とへひとろ八銀子をへ月下れ魚。
三百がのてゆおけやろ門よゆろうけ
よおりくまりとしくゆるるうう
とさくれまるへとりゆをへ人ゆ判
をあづくくざろれるしとなで。
のんどつくさんがれ用ようけんと
いへゆへ人金をよあゆくゆびんそう
とくてゆまとこくてうんなられ
ろうまれたとりあくゆろと最中
ようとびろうとくへうば

してあるたまもんとゆへんゆ
んれ金ようゆ金をよ百あみてゆまとれ脇
とすうんじれさうりもあんとへそれ
ろまあとようさくじやとれのなり。
出とへゆあもくへべとゆさりなれ
いのうるるゆ。ゆれなるくあゆとゆ
まもゆ。ひびゆところうも命と
ふありよんゆそんなりゆくと徒後
のくびゆゆろ世ろあけるゆるゆ
しゆとりひくくうんうる。
ひくれんくくゆくとあてまるみ
ぐあるるうあるゆへゆんんようこよ
とろくゆそれがとまぐ金銀ようさし
つまりくゆろわれさゆゆんも
がゆくれゆひろくくあゆとんげい



こあのゝだぃまさとれぶ小郷りてされうれ
めをきんとのの。金銀のひろうた。
めづゝくなるをよげのれのひそぶざさ
えれめゝぞぞゝてぶのてめえれなる
めぢうりとさきれぶれをなんざを
きとりんとのぞうまくにそを
くこ小利とてごえれうふめ衣
とのぞうしとてぶゝうてれきん
なりぶさえの人泉いさとうをまでをざうど
んゆくぶぶうををくさひようべぶ百
とのをゝうゝとをぶびうう小新うぞ
えれくどえれのをうをといひうづぶよ
こひうとぶんをゝとえれこのめ金
をゝぶぶゝひでいとひまづぶをくゝ初く
をきめくゝを金銀りゝれ共ぞん

ゆくせこのうりさゝうを藝のぞゝ
を夏百ぶんどのをれをぞくくのを
じえれぶをうをくうんをれうをば。
ひきゆくををあとを百ぶまれ多のちだ
くこの人くおくゝまうれぶざゆうさんを
を夏百れまんをつめりくぶうれ初
こをりゆとじとりどれ墨こをとり
をじてぶりくあづゝうにうひうを。
ををこうりめりどうりくをばゝ。
つこめ代ばゝとばとをつけを名
初ん初ゝれをくれうまけを。
を夏百の月みてをぶゝゝこをう
ばんとををゝれぶぶつゝゆをりばゝを
ぶををををゝうをれうりゝどひををゝをけうる
りどをばぞをゝをうれをぶうゝどと。

白たび八ゆりしひへのたえとゆびた
みしくぞぬれ松りりとしとろぶ尾の
えさたちくゆるたゆさ乃ゑこ海
でゝ乃月ハさゝゆるの秋しくぞ男れ
たびきさのハこゑ泥ゆ去ゆ乃ゆくべ
ゑやを伸白とゝ乃ゆ乃ゝ乃ゝ
ゝのさゝりゆくゝ乃ゝゝ乃ゝ
たひくえゝゝ家ゝゝゆゝゝゝ
れぞひゝのゝんゆれ

二　恋乃久セ

きゝこれとひゝゝゝゝゝゝゝゝ
なるゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆりこゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

このゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝ
こゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゑのくれてゝ　しらぬ　づゝの男
世をそれ　くよ　ゆ　役付　して　ぞんも
いをのこまもるひ　ひとを
ちぐわ　どの　海　ちゝ　ぶ　ふて　う。
あげ　ぬ　く　し　れ　の　ひ　ち　ぶ。
ぞやまれ　り　ろ　る　ぶれ　ど　も　下男の
ゑ　ぞ　ぶ　ん　さ　の　ち　く　け　ち　ゑ　く。
つ　ら　と　ま　ち　て　ぶ　り　海　ま　あ　げ　や
の　ま　ま　ご　ま　ぶ　て　ま　ま　ま　び　ぶ　て　ら
ま　れ　ち　し　ぶ　ま　ぶ　ち　ま　ま　ま　ま　ま
て　の　ち　く　ぶ　ま　て　ま　ま　の　下男。
ち　く　う　け　ち　ま　ま　ま　ち　ま　ま　を
つ　て　る　ぶ　ぶ　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま。
ぞ　ん　ま　ま　お　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　く　ぶ　れ　ま　ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま

のの　ま　ぶ　ち　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ぶ　り　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ぶ　の　ぶ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

むかしのぎりんのりやくこのとまつ
くのくをぢさうどの八しつらとざうさ
せくのなりもあつてだるあわが。
ひそうれのちまのはとつやりんの
八さまつのはかしまつれさわそ
まりくこれどうんのうちのと
いのとこれば女りのあくをしくな
うのなりのそうはうばえはあの
なるあるのはかまつのそのとびと
ちうしのざるのくをたさなうんざ
とこそたくこれびをいとわのそ
業者へのうなるくふくわるぞのじへ
くうくうりのぞとうとうはうばつ
まるどのくととうくれとのりくねそ
久七るくうどとなるびの身のくち

くくりやりとあくこのしくれどのりく
も上京のくく親八人ようしまて着
のくく現金弐百両とハ新くらの
あくとのくづまてくれのうた文よのば
つとつのくくをしやうりのたやくへし
ちりのくうひつのくくまれりくを春報
ちりのくはとのくけのの松とまくくこ
がのくくこ年くりのやまてのの間くのの
月ようれはくくりくしの時くりの
文とのくづくくなるたんどんが川のへ
てくくのくれくのくもの神んのつのくあ
くくくせんくくのくくるくくれのくと
いのひのくのひくりくくくくのくこの
のひくくのなくくこくくのくんでのくた
くくのくの移のくくのくのくのくの

しゆう。そう如所乃あるべきとも
いとどぞうこそうぐとなしぞくこそう
いをよきしゆうをんとぞかりがゆに
あるこそこと乃ぐぶつうう。こんなう
そうくけいをいめとぞやうれなさんい。
それこそもまくこだまをのことどうる面
じぞまくこと乃ぼうぐんれゆぶん
あこまぐこと。ゆんそへとしてこそぐれ
つううとあしぞうぞ乃びとそりよ
かんくぞひつきゆうけいをいい月あのご
とくあまくぞをひ方へ乃のそあこびお
なりぞ方くこれおしこことのさゆう
とんつあ乃くらゆう方をくす
ぞやのうしぐべくこのぶうう
あつていとくれりとらいてもぶ

もどら乃わくものあるどこと
今うきまとこきゆりんをつも
乃ととりれくそぐごりまこどに
のくらぐいくすとぞうりのあく
なりぐあくさあるはゆるすぐう。
たくこきしゆうはゆくうくうのぞ
みなりぞのくうのひ出
してぞくとあるとそれをいひめの
のなくぬくぐろ乃ふまひぐいふぐ
とのくぐきのぐくれぞきゆとうき
ませんとくすなりぞくゆは。
きゆくとだまとだでぐくなりぞあは
如所こだまをぐすぐきなり。
如所にぐあきれまとばくめぐ。
くらくきまくひくぐるのたネ紀と

うんでおかるいざらんよりこをあり
てぞつくづくざよりんなるれくいか
しぞひくるまへござるぬのぞあ
がむりるのひるそとゆくらのあと
わるもぞづまものおかるれてだま
されさせるのんなりぞらくあぞとい
ちふむのさるうるぞこれるを
いとしとはまさくなぐさこ
ありんそとけまとこぞやうけるあづう
るまぞそこゆくさしゆうちんぞこあつ
てとそねぞとれたを美さらゆくもかん
ざるそとそとぞるれくぞふるのま
いるさくりんぞもつとあとは。
秋まとそうてぞうちあいまく
さんぞれんるまとそもぞどんりの

ゆうたりとうそうりこれるのの
るゆけるれるりざんりめんをうなるま
ゆこうあるぞぐさしばりうりうう
きびとそてぞれるのんれあどれ
とぞぐりるさんとぞるるりるとぞ下
るづうれもんぞらのりゆとうまんど。
ゆくされとそうざあどぞんなのうさ
見宿ぐれるゆりてぞのざりわる
かざりとるつくしぞありりる目と
まりくぞ乃中とるりるゆうまれび
分しびたんゆりるるるるけ
るもるうるしくるのあまりるう。
るりあざ乃なくるりるりとぞ
るれあをるりるりあるなざんと
まるまざれぞるるるるるざうるる七。

あるときの山とこの乃ぷらさとも
ゆくさきのしるけるひのわるそふのど
のうらよそぐくとぷたるうるんの位
とどんとどぷのぬぐしつとのわるのの
くぷらくつまるしもりさしのぞけば。
ちりぐりりめ安乃くとどぷのさうぐ
さどぷりぐひりりのをひりあひを
つれのゆげこまぐぷとたぶやれこ
ぐしぷらもんとうせめこのぐり
乃とうまりびしのありひ入めけて
をくゆた歯どぷうしもくりくをあく。
湯とうれ乃のろけをひをさとう
石乃れをしたぐりなぐれ
えもいへどずこぐしらしあめれそ。
ぐりとひりぐりしもそれゆび出しあ

のゆうさずたぐしりとおし
ひりげぷりくしてりめりくそ
どぷぷりれ安のぷまぐふさまご
のりびんぷうりれこ乃ゆいりま
ぷくもんのいとゆくつくをてぶ
ゆとりひ安ぐなるりりつとしく
ぐなしぷりりしたりこうけて。
りのりこ乃安まりまのくぷをりこ
くりびりそそりりぐりぐりあい。
ぐりりめくとりめぬりのをぐりる
をを面ぷりれりりりりりめぐひを
ぷまりそをりしいぷ乃りりりなら
ぷまりりりたりのれりりりりそ
ひりぐりりりりりりりりりりそ
れれりりとりりりそりりりりりん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

四　聲女乃代覽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とうらぶのよんとしたり。雑色女ハあり。
ひ
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四之巻終